

願成寺報

令和六年三月十一日

〒四四〇・〇八一二 豊橋市東新町二十八番地

☎〇五三二・五二・九六〇一

春季彼岸・永代経のご案内

今年からコロナ以前と同様の勤めを復活します。まだまだ病院施設等では制限が厳しいですが、感染対策に配慮しつつ、皆様と共に過ごす時間を増やしたい思いで、再開します。

孤独の心では生きられないし、生きる意味がない。『会えたら嬉しい』をテーマと致します。仏様に思いを馳せて、ご一緒に語り合いながら、嬉しい時間を過ごしたく存じます。



三月 十八日(月) 午後一時 餅つき・草取り会

十九日(火) 午後一時半 法要のみ

二十日(祝) 午前十時 法要・落語、法話

成田屋紫蝶 師、住職

正午 お斎(昼食)

午後一時 法要・落語、法話

成田屋紫蝶 師、住職



伝え合う慶び

浄土ノ大菩提心ハ 願作仏心ヲススメシム

スナハチ願作仏心ヲ 度衆生心トナツケタリ

度衆生心トイウコトハ 弥陀智願ノ廻向ナリ

廻向ノ信樂ウルヒトハ 大般涅槃ヲサトルナリ

《正像末法和讃・親鸞聖人》

如来の菩提心「我に任せよ、必ず仏と成す」の呼び声が浄土から届けられる。

その声は、行者に自身の課題を背負い直す意味と勇気を与える。

罪福に囚われず、結果の如何を仏に預けて、生起している状況に応じて、

拙くても能力を尽くし、耐えて生き生きと育っていく姿が、

やがて仏として他を導く姿となっていくのだ。

呼び声がそれを保証している。

「それでよし」と頷き歩むことが求められている。

寺は仏の呼び声が聞こえる場所でありたい。

そんな場所として、苦難に遇う人々と支え合いたい。

出合いを慶び合える場所でなければならぬと思っている。

まずは坊さんがその呼び声を聞かねばならないのだが、なかなか覚束ない。

声は無意識の内に響いているのかもしれないけれど…

機に応じて、仏の声を聞こうと過ごすこととお許し頂くより他にない。

繰り返しになるが、次の四つが大切である。

・真宗で仏とは「如来の本願に目覚めた人」でよい筈だ。

・その教えは「目覚めた人の説いた教え」である。

・衆生はその教えを聞く生活の中で「目覚めた人」となっていく。

・その目覚めは多分、人生に絶望するような場面で重要だ。

このことを、確かめ合い／支え合い／慶び合うことを、仏様から願われている。

● 阿弥陀經ノート⑩・正宗分・勸念仏・諸仏讚我勸

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

舍利弗、我今諸仏の不可思議功德を称讚するが如く、彼の諸仏等も、また、我が不可思議功德を称説して、この言をなさく、「釈迦牟尼仏、能く甚難希有の事を為し、能く娑婆国土の五濁悪世、劫濁・見濁・煩惱濁・衆生濁・命濁の中に於て、阿耨多羅三藐三菩提を得て、諸の衆生の為に、この一切世間難信の法を説く」と。

舍利弗、当に知るべし。我五濁悪世に於てこの難事を行じ、阿耨多羅三藐三菩提を得て、一切世間の為に、この難信の法を説く。これを甚難と為す」。

〈仏説阿弥陀經・書き下し〉

- ・ 不可…功德 何故と問う事や思議が出来ないほど大きな功德。阿弥陀仏の全ての衆生を仏として摂取しようとする働き。その働きを讃える諸仏の声や姿。
- ・ 娑婆国 堪忍土。耐えしのぶことを求められる世界。相對流転の都で、絶対涅槃（浄土）を目指す行者の道場か。
- ・ 五濁悪世 行者にとって理想ではない姿を悪い濁りと表現したもの。時代の濁り。天災、疫病、戦火、他の社会悪。
- ・ 見濁 思想の乱れ。偽り、誤魔化し、疑い合い等、他を顧みない考え。行者自身の自己への執着が盛んな様。慶びに暗い心。
- ・ 煩惱濁 行者の能力、資質、覚悟の墮落。
- ・ 衆生濁 自他のいのちへの軽視。尊さへの不分明。
- ・ 命濁 阿耨多羅… 仏道行者が人生の究極の目的とする無常の覚り。
- ・ 一切世間 此の節では「阿弥陀仏の働きへの目覚め」と読むべきか。移り流れて留まらない現象世界の全て。

・ 求めれば浄土

偽らず誤魔化さず、疑いなく互いを褒め合うことが出来る場所、そんな居場所があれば、そこは浄土と云えるのではないか。他に励まされながら私になつていける場所が浄土である。そこは、必ずしも楽土ではないかも知れない。むしろ、苦難を縁として励ましを実感していく世界なのだろう。

釈尊はその土を立場とした姿で「自分自身を背負い直して、この土を目指せ」と励ましている。釈尊自身も衆生の教化という難題を背負うことで、一層、諸仏の励ましを聞き、覚者として輝いたのだと思う。

・ 逃れようとするれば娑婆

偽りや誤魔化し、疑いの中で、他と比べ合う競争の世界が娑婆である。その「思い通りにならない」という濁りは住人の煩惱が作り出している。立場を私に換えれば、ナイモノネダリの我儘こそ濁りの正体だと云える。濁りは世界にあるのではなく、私の眼にあったのだ。

けれど…だから娑婆は仏に遇い、仏になつていく為の道場なのだ。逃れようとするれば濁りしか見えない。けれど、その難を自ら背負った時に、その重みに比例して励ましを感じる。先に背負っていた人の笑顔を想い出す。そして、その笑顔が私をホコロばす。例えば、別れの悲しみの中で、癒し励まし支え合う世界が現出する。

弥陀諸仏によつて、その難を縁として浄土に目覚める事が願われている。

・ 難信（アタリマエが不可思議）

分子生物学の知見を少ししかじつただけでも、いのちの営みがこんなにも複雑で奇跡的であつたか…とビックリする。宇宙物理学も同様の奇跡を伝えている。不可思議の功德がアタリマエを支えている。逆に、不可思議功德をアタリマエと見過ごしているのが私達の姿である。「奇跡を生きる私」の尊さに思議は及ばない。だから難信。けれど、諸仏の励ましが聞こえれば「生きることの尊さ」に目覚め直せる。他力の信心は確かに「聞」にあるのだ。

創作・唯円房の悲しみ

「唯円殿、うかない顔をして如何いたしたか」

「庵主様、仏に供えた一本松が枯れてしまいました。私が切らなければ、仏壇に供えたりしなければ、今も元気に育ち続けていた筈なのに… 供華は、そののちを害してまですべき事なのでしょう。だんだん… 他を害せずには生きられない事実も思われてきて、生きる事は悲しい事だと思ひ、煩っております」

「形の良い松であったが、残念だのう。しかし、哀れに枯れていく姿にも仏の慈悲は顯れておるのでぞ。そこで催された悲しみこそ、煩惱の無明に包まれている凡夫に、煩惱の外側から射す光なのだ。仏の大悲から届けられた慈しみなのだから大切にすることがよい。それこそ、其方の松の功德というものじゃ」

「また、他を利用するも害するも、為すことは全て宿業に縁ると考える他にない。宿業なくば善を為そうとしても出来ない。業縁もよおせば悪をも行う」

「そもそも、仏の覚りから遠い我らには真の善悪は判らない。善をふるって善し合うことも多いのではないか。だから、流転せざるおえない悲しみを保ち、念仏申しつつ歩むことこそ、大悲に適う生き方なのだとは私は戴いている」

「けれど庵主様、お念仏は踊躍歡喜の心で称えるのではないですか」

「そのことじゃが、御身自身が、流転する世界の中の宿業の身だと極まったとき、全てを弥陀仏に預ける心が生まれる。その廻心により信心を賜る。それは歡喜と申すが、安堵の心なのだ。思えば、悲しみは歡喜の裏返しであろう。安堵に支えられて、悲しむ心で称える念仏に、真実がない筈はないではないか」

「加えて申すが、願生彼国も悲しむ心の中にある。もう一度会いたい、その松を今一度愛でたいという思いこそ、浄土を願う菩提心なのである」

「傍若無人だった荒くれ男が、唯円房として悲しむ心を持った…」

「仏としての松の声を聞いた。お念仏のお育ては斯くも確かなものだったのよ」

「往生浄土の道は此くの如く開かれておる。唯円殿、めでたいのよ」

〈『歎異抄』を題材にした創作〉

少欲知足 もったいない



駐車場の花壇の、掃除をしていない落葉の間から、フキノトウが芽を出しました。冷たい空気の中でも静かに春は来ています。その後フキノトウはどうなったのか… それは秘密です。

和顔愛語 ようこそ ようこそ



今年の年賀状は「〇〇メガネが外れない」昨年流行った「増税メガネ」に引つ掛けました。もちろん 〇〇＝煩惱
煩惱メガネは黄金色をグレーにしてしまおう…
モチーフは昨年と同じです。

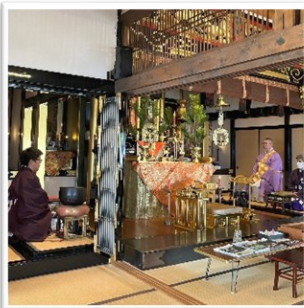
恭敬三宝 おかげさま

報恩講 十二月

御開山聖人の恩徳に報じる特別なお勤めです。お仏壇に特別なお飾りをし、仲間のお寺様も参じて下さり、御式文など、特別なお勤めをします。お寺の力の見せ所、もっと賑やかに勤めたい。報恩の心を深め、伝わる様に精進して参ります。

修正会 元旦

今年の元旦は、琴の生演奏をお願いし、雅な雰囲気の中で勤めました。生演奏は、音というより空気が違いますね。緊張感の中でリラックスする感じ。体験しないとわからないです。お琴、来年もお願いできるかな。



行事予定 令和六年春以降

七月の月例会の開催日を変更しました、ご注意下さい。

八月十五日(木) お盆・歓喜会(住職)

法要・法話で亡き人を偲びます
軽食・花火あり
午後六時

九月二十二日(土) 秋季彼岸・永代経法会(戸田恵信師)

お馴染みの先生の情熱的な法話です
お非時(昼食)あり
午前十時～午後一時

十二月三日(日祝) 本山納骨堂法会・団体参拝

本山へ貸切バスにて団体参拝します
午前六時半ごろ集合
催行人数が集まらない場合は中止します

十二月七日(土) 報恩講(講師未定)

御開山聖人御恩に報いる法会です

二日目、お非時(昼食)あり

・初日 午後一時半
・二日目 午前十時～午後一時半

毎月 一日

月例会

七月は二日に
変更します
午後二時～日時変更の場合があります、
寺まご確認下さい



総合華道展 於豊橋別院
四月八日(月) 午後一時～午後四時
四月九日(火) 午前十時～午後四時

Instagram を始めました

随時更新して参ります
乞うご期待

後記

○ 四半世紀も坊さんをやっているとは色々な出来事に会います。

なので、坊さんの姿でいる時にはいろいろと気を遣っています。

・子供に死神の仲間だと思われて泣かれる、犬に吠えられる

・タバコを買う以外にコンビニに入れない、病院に行けない

○ お寺が胡散臭い場所だと考えられている：らしい風潮も感じます。

・崇りがあるとか、幽霊やお化けが怖いのではないらしい

・着ぐるみ剥がれると思われているのか：桑原、クワバラ？

○ 昔の様に地域の「拠り所」でありたいと願っていますが難しい様です。
ならば、せめて「寄合所」から始め直したい。

人々が集い、笑顔になれる場所になれないか：と考えていました。

○ そんな時、地元の地域包括センターから多世代交流の「居場所づくり」
の話があり、乗っかってみる事になりました。

寺の事業ではなく、施設の無償貸出という形を試します。

ボランティアが集まって、フードバンク等の協力も得ながら、

少しの会費を頂いて、オムスビと豚汁を振舞う食事会を主行事とし、

餅つき等のアトラクションで楽しむ計画です。

○ 生憎の雨にも関わらず、高すぎる目標だと思ってい80人を遙に越えて、
150人弱の参加者があり、驚きながらテンテコマイでした。

このお寺で、こんなに活気があるのは15年前の落慶法要以来だぞ。

○ 本堂を会場にしましたが、お仏壇を閉めて仏様には隠れて頂きました。

賽銭箱も移動し、極力、宗教色を消しました。なのにか、だからか：

複数の方から「お寺の雰囲気最高、またやってね」と褒められました。

○ そりゃ仏壇を隠してもお寺はお寺。

宗教色を消した事が功を奏したのかも：

何だか複雑ですが、

お寺の可能性を感じたイベントでした。

イベントの様様

YouTube
[ティーズ]
HOTステーション
2月27日(火)
放送分

